

仁徳天皇陵古墳外濠における淡水ガメ目視調査報告

山内彩香・谷口真理

654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園

Visual observation of fresh water turtles in the outer moat Daisenryou Tumulus, Osaka prefecture.

By Ayaka YAMAUCHI and Mari TANIGUCHI

Kobe Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, Hyogo, 654-0049, Japan.

大阪府堺市堺区大仙町に位置する仁徳天皇陵古墳(大仙陵古墳)の外濠にて目視による淡水ガメの観察を行った。仁徳天皇陵古墳は、最大長840m、最大幅654mで、墳丘周りには三重の濠がめぐっており、今回、調査したのは最も外側の外濠である。調査は、2016年4月29日と30日の2日間行い、9時から12時の間に外濠沿いを1名で歩いて実施した。カメは双眼鏡により可能な限り種を確認し、発見位置、種ごと個体数、発見時の行動(甲羅干しか遊泳か等)を記録した。

2日間で目視されたカメは、合計146匹(延べ数)で、全体の97%にあたる142匹がアカミミガメであった(表1)。残りの1%はクサガメ2匹、イシガメ1匹、スッポン1匹であった。イシガメとスッポンは観察した二日間の内、1日しか確認されなかった。また、アカミミガメ142匹のうち54%にあたる77匹は甲羅干ししており、残りは水面で泳ぐ姿が確認された。クサガメ、イシガメ、スッポンはいずれも甲羅干ししていた。さらにカメは外濠全域で確認されるものの、日がよく照りつく甲羅干し場所が多い外濠の南東側でよく確認された(図1)。

仁徳天皇陵古墳は、5世紀中ごろに築造されたと推定されているが、外濠は明治時代に掘り直されたものとされる。外濠で確認された多くのカメは、人の手により持ち込まれたものと推測される。また、外濠の周囲は、人工的に護岸にされているもの、外濠より内側の濠へカメが行き来することは可能と考えられる。このため、今回、立入禁止区域のため、調査はできなかったが、内側にある2つの濠にもカメは生息し、古墳全域にアカミミガメは生息しているものと推測される。このような歴史的に重要とされる古墳に、北米原産であるアカミミガメが多く定着することは、文化財保護や景観上、問題であると考えられ、早急な対策が望まれる。

表1. 仁徳天皇陵古墳の外濠で観察された淡水カメの発見個体数(観察日ごと)

観察日	発見個体数				合計
	アカミミガメ	クサガメ	イシガメ	スッポン	
2016年4月29日	53	1	1	0	55
2016年4月30日	89	1	0	1	91
合計	142	2	1	1	146

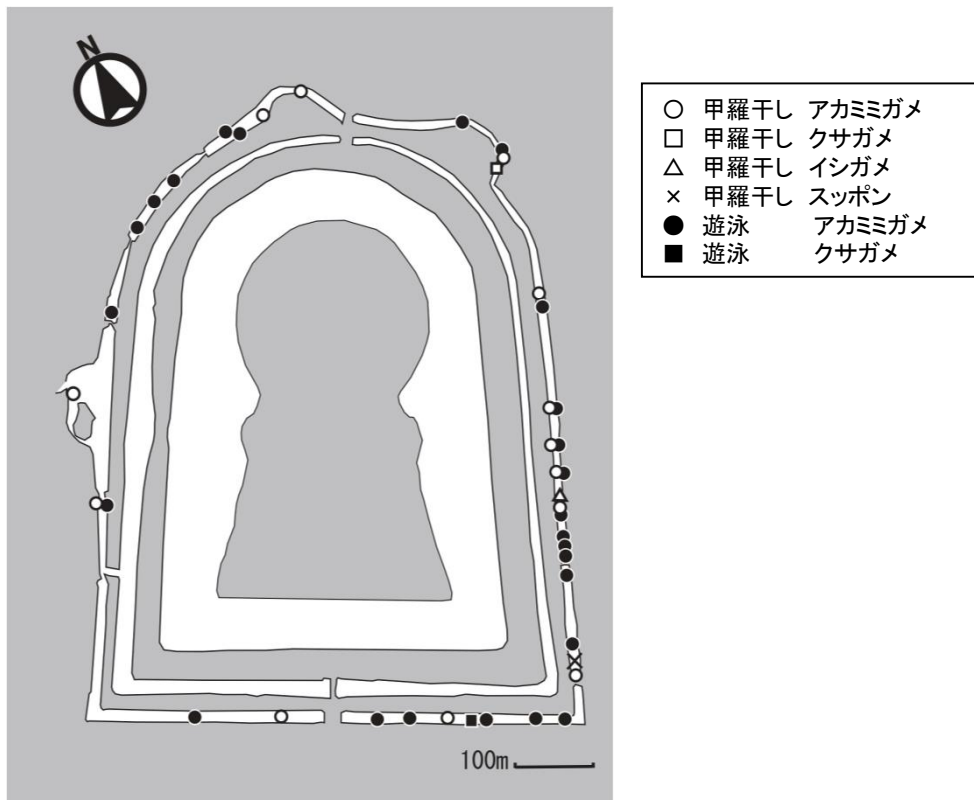


図1. 仁徳天皇陵古墳の平面図と淡水ガメが観察された位置



図2. 仁徳天皇陵古墳の外濠で確認された淡水ガメ
 (上:アカミミガメ, 下左:クサガメ, 下中:イシガメ, 下右:スッポン)